

IPU・34



1年生は、10回生。

フレッシュな顔ぶれがキャンパスを元気に歩き交わっています。開学から10年目という節目を迎えた本学。この春、10回生として入学したのは4学部で468名(男子220名、女子248名)。岩手県出身者は67%の308名に上ります。

その一人、岩間健太さん(総合政策学部 山田町出身)は「道路など、地域交通のインフラ整備を専門的に勉強したい。大学祭実行委員会のメンバーとしても燃えています」。学業に課外活動に、それぞれの大学生活が彩られます。

【年生の皆さん、左から】
 鈴木 麻美 社会福祉学部
 水原 裕太郎 ソフトウェア情報学部
 柏崎 真 看護学部
 鈴木 竜子 総合政策学部
 森 裕子 社会福祉学部
 岩間 健太 総合政策学部



キャンパス 彩

カラマツの新緑

グラウンド脇の並木です。すくくと伸びた幹が薫風に揺れていました。斜め下へ張り出した枝先で、とがった細長い葉が鮮やかさを増しています。

第10回「日本老年行動科学会 岩手大会」

「ケアと研究の出会いの場」として研究者や実践者が全国から集い、高齢者ケアに行動科学的なアプローチを展開します。

- テーマ 『少子高齢社会における看取りを考える』
- 9月1日(土)～2日(日) / 本学にて
- 大会会長 石川みち子 [岩手県立大学看護学部]

主なプログラム

■記念講演

「多死時代における高齢者のターミナルケア」
 山崎 摩耶 [社団法人 全国訪問看護事業協会]

■教育講演

「くらしを支える医療」
 守口 尚 [遠野市国民健康保険 中央診療所 / 医師]

■シンポジウム

「少子高齢社会における看取りとは」

第33回「日本看護研究学会 学術集会」

■市民公開講座

『マイナスこそプラスの種
 ～チャレンジドの力を活かす地域づくり～』

講師 / 竹中ナミ [社会福祉法人 プロップ・ステーション理事長]
 「チャレンジド=しょうがい(障害)」の有無に関わらず、お互いに支え合い、それぞれのプラス面を活かしながら生きていく。そんな地域づくりに役立つお話です。

- 7月27日(金) 18:30～20:00
- 盛岡市民文化ホール=マリオス [大ホール]
- ※事前申込・参加費は不要です。



世界が、もっと近くなる。 アイーナでTOEFL・iBT試験

英語能力を評価するインターネット版TOEFL試験が、アイーナキャンパスで行われています。運営するのは、岩手大学・盛岡大学・本学の英語担当教員が連携する「いわて3大学TOEFL-iBT実施事務局」です。

- 対象 ●高校生・大学生・社会人など
- 会場 ●岩手県立大学アイーナキャンパス・パソコン演習室
- 予定 ●平成19年5月以降、年間7～10回程度
- 受検申込 ●TOEFLの日本事務局である

国際教育交換協議会のWebサイト
[\[http://www.cieej.jp/\]](http://www.cieej.jp/) で確認を

受検料 ●\$170～195\$

試験 ●パソコン端末機を使ってWebサイトで。リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングで計3時間半ほど

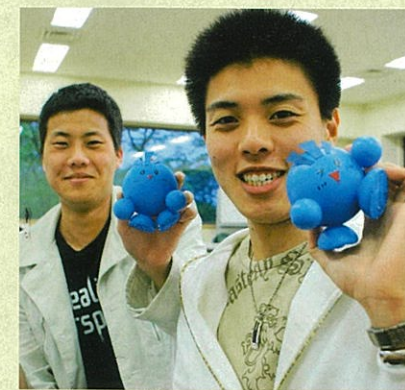
■問合せ先

岩手県立大学 教育・学生支援室 / 教務グループ
 TEL.019-694-2016 FAX.019-694-2011

IPU Festa 通信 ① 秋へ駆ける。テーマは“YOU”

「あなたが主演」とメッセージを送る“YOU”をテーマに、より強く参加型をアピール。「IPU Festa 2007」は10月27・28日の開催です。多彩なイベントや模擬店、さらに盛岡大学や富士大学、岩手大学とのコラボレーション企画などが具体化しつつあります。「学内外のたくさんの方々に参加していただけるよう、参加型の企画を重視する方針

です。ますます忙しくなりますが、自覚と責任感の芽生えてきた1年生の存在が頼もしく思えます」
 大学祭実行委員会の平井啓介委員長(総合政策学部2年 / 写真=右)、星智宏副委員長(ソフトウェア情報学部2年 / 同=左)はイメージキャラクターのIPU(イブ)君を手に、一体感を語ります。



リエゾン

LIAISON

岩手県立大学では、公立大学法人化した平成17年度より、県から示された中期目標・中期計画(平成17年度～平成22年度)に基づき年度ごとに計画を立てて運営しております。今般、平成18年度分の実績を取りまとめ、県に報告しました。計画以上の実績があったもの、また、思うような効果が得られなかったもの等がございます。県への報告内容は岩手県立大学のホームページにも掲載しますので、多くのご意見をいただきたくと存じます。(斎藤)

IPU・34

発行 / 2007年6月30日

公立大学法人

岩手県立大学

経営企画室

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52

TEL / 019-694-2005・FAX / 019-694-2001

URL / <http://www.iwate-pu.ac.jp/> e-mail / management@ml.iwate-pu.ac.jp

スーツ姿で明日への誓い マリオスで、初めての入学式

4月4日、平成19年度の入学式がマリオス（盛岡市民文化ホール）で行われました。
会場は盛岡駅隣接のスポット。4学部・大学院・盛岡短期大学の合同形式は初めてです。スーツ姿の我が子と一緒に、記念写真を撮る親御さんの姿も多く見られました。
さまざまな目標や誓いを胸に、新生活のスタートを切ったのは4学部479名、大学院52名、そして盛岡短期大学部107名。また宮古短期大学部（経営情報学科）には、108名が入学しています。



さらなるステージへの疾走

『平成19年度計画』で 重点的に取り組む事項

- 1 大学の魅力の向上と、意欲ある学生の確保**
高大連携や入試などに関する取り組みのほか、教育・学生支援・就職・研究など多岐に及ぶ取り組みも強化し、本学の魅力アップを図りながら、平成20年度における入学志願者の適正水準を確保するとともに、大学院の学生定員充足率の向上を目指します。主な取り組み項目は次の通りです。
● 高大連携の取り組み ● 入試制度の整備 ● 社会人学生受け入れの強化 ● 教育課程の再編 ● 大学院の充実 ● 資格教育の拡充 ● F.Dの推進 ● 学生支援の充実 ● 就職対策の強化 ● 大学の魅力に係る情報発信
- 2 教養教育の一層の強化**
人間的な成長を培う教育の実践基盤として、共通教育センターや各学部で取り組みを進め、平成20年度のカリキュラムに反映します。主な取り組み項目は次の通りです。
● 多様な教養教育の提供 ● 特徴的なクラス編成による教育の充実 ● 英語教育の推進 ● 実践活動の単位認定
- 3 活きた専門教育の充実**
社会や地域の課題に対応して問題解決を図る調査・分析・報告の能力、柔軟性・独創性を養います。各学部・研究科の取り組み項目は次の通りです。
● 看護学部・看護学研究科 ● 卒業研究発表会の日時を統一し



それぞれの道は、 なお続く。

平成18年度・学位記授与式
昨年度の学位記授与式も、マリオスで行われています（3月23日）。
たしかな春の訪れを感じさせる、ひと時。スーツ、振袖で正装した卒業生は晴れやかでした。セレモニードでは喜びに浸る顔、これからへの誓いを新たにすする顔。実社会や進学先へと、それぞれの道は続きます。

平成18年度学生表彰 君の輝きを称えます

- ◆岩手県立大学 優秀学生賞
 - 看護学部
 - 4年 三浦 康幸
 - 2年 菊池 陽子
 - 3年 佐藤 美帆
 - 4年 齋藤 都
 - 社会福祉学部
 - 2年 浅石 裕司
 - 3年 富田 智子
 - 4年 佐藤 愛
 - ソフトウェア情報学部
 - 2年 太野 正幸
 - 3年 佐久本 武
- ◆岩手県立盛岡短期大学 優秀学生賞
 - 総合政策学部
 - 4年 加藤 義人
 - 3年 加藤 俊輔
 - 4年 金野 佳幸
 - 岩手県立盛岡短期大学 優秀学生賞
 - 生活科学科
 - 2年 上山 摩里子

マに、平成19年度の文部科学省・現代的教育ニーズ取り組み支援プログラムに申請する。
●国際文化学科は異文化交流事業の実施、国際文化講演会・多文化共生フォーラムの開催など、「特色ある大学教育支援プログラム」特色GP（平成18年度・文部科学省）に関する事業を推進する。
●宮古短期大学部
●2年次の特別研究「専門ゼミ」のフィールド活動など、地域のさまざまな課題を学ぶ機会を設けるとともに、協働を志向する諸団体との交流を図る。
●少人数教育の充実に向け、1年次前期の「基礎ゼミ」と2年次の「特別研究」をつなぐ科目の開設を検討する。

4 研究成果の地域への還元と 外部研究資金の獲得

● 全学研究プロジェクトや戦略的地域再生研究機構（プロジェクト研究所）の成果を地域へ還元するとともに、共同研究・受託研究・競争的外部研究資金の獲得につなげます。主な取り組み項目は次の通りです。
● 課題研究の推進 ● 研究成果の地域への還元 ● 知的財産の活用 ● 外部研究資金の獲得

5 地域貢献強化としての 社会人教育の充実

● 社会人のキャリアアップをサポートし社会の変化に対応できる人材づくりを通じて地域貢献を果たします。主な取り組み項目は次の通りです。
● 社会人学生の受け入れ ● 社会人に対する教育プログラムの提供

内定率は97.5%の高水準

平成18年度・卒業生の進路データ [4学部/3月31日現在]

学部	卒業生数	就職希望者数	就職者 [%]	進学者	その他
看護学部	99	96	95 [99.0]	3	0
社会福祉学部	105	94	92 [97.9]	5	6
ソフトウェア情報学部	141	117	115 [98.3]	22	2
総合政策学部	105	96	91 [94.8]	1	8
4学部・計	450	403	393 [97.5]	31	16

岩手県内への就職内定率

看護学部 / 29.5%
社会福祉学部 / 54.3%
ソフトウェア情報学部 / 22.6%
総合政策学部 / 35.2%

公務員等の実績

岩手県職員I種 [社会福祉職 / 2名]
岩手県医療局 [助産師 / 1名・看護師 / 14名]
警察職員 [6名]
県庁職員 [養護教諭 / 2名・看護師 / 3名]
市町村職員 [16名]



サークルで 元気づける



●ピアいぶ ハートを結ぶ私たち

「あなたは、独りぼっちじゃない。ちゃんと話を聞いてくれる人がいて、心安らぐ居場所も、あるんだよ」
そんなメッセージが聞こえそうな、温かいハートの面々です。代表は三上真恵子さん（看護学部3年）。9名の1年生が入り、30名を越す大所帯。「ピア(peer)」は仲間、「いぶ」はIPU（岩手県立大学）の略称です。二つ合わせて「岩手県立大学の仲間たち」という意味がサークル名に込められます（顧問/福島裕子准教授＝看護学部）。
相手との対等性を基本に、おなじ高さの目線で仲間として悩みや苦しみを分かち合い、より良く生きるための手がかりを求める。ピアカウンセリングの内容は自己理解・人間関係・恋愛・性と生など多岐にわたります。中高校での思春期保健教室、カウンセリングなど学外活動にも一生懸命です。

留学生サロン



黄 詳細
社会福祉学研究科/博士前期課程1年
日本に学び、母国に活かそう。
韓国の又松（うそん）大学からの研究生として1年を過ごした後、黄さんは、この春から大学院に通っています。
「うまく入学試験に合格するよう、美しい岩手山を仰いで祈っていました。専攻したいのは日本の福祉システムの仕組み、ならびに高齢者福祉に関する現場マネジメントです。できれば後期課程にも進み、いつか母国の福祉に役立てるような人材になりたいですね。有意義な留学生生活が出来るように助けていただいた先生方に感謝します。」

介護保険制度の運用について、高齢者の視点を交えて現場リサーチを行っているようです。福祉の経営面とくに福祉ビジネスへの関心も高い黄さんの学びは、さまざまな領域に及んで広がりを見せていきます。

※『平成19年度計画』の詳細は、ホームページでご覧いただけます。 <http://www.iwate-pu.ac.jp/>

●経営情報学科
2年 小笠原 千歌
2年 鈴木 沙織
◆岩手県立大学 学長特別賞
「ふるさと」編集グループ
●動労者のボランティア情報誌を発行
●総合政策学部18年度卒/吉田 淳美
●田野畑村での防災意識の研究が高い評価を得た
ソフトウェア情報学研究科
岩田 耕平
：情報処理学会論文誌に、採録が確定
※年次は平成19年度



自立・自助への、さらなるパワーを
遠野市との包括的連携協定

3月13日、本学は遠野市との間で包括的連携協定を締結しました（あえりあ遠野）。

「自立・自助の道を歩む当地が、ますます元気になるために知のパワーを求めています。大学と手を携え、誇りを持って議論を重ね、ゆるぎないパートナーシップを育みたいと思います」

こう期待感を表した本田敏秋市長に応え、

「あまねく地域社会へ視線を注ぎ、現場に宿る本質に迫って問題解決の手立てを導き、できることから一緒に具現化させていきたいと思います」

と、谷口誠学長が固い決意を述べました。



幼稚園と保育園との一元化を巡るフィールド調査（社会福祉学部）、総合交通システム（総合政策学部）に向けたアドバイス（総合政策学部）など地域課題を捉える取り組みが、かねてから行われてきました。いくつかの先行事例に加えて「少子・高齢化プロジェクト」の推進が、遠野市との連携強化の背景に挙げられます。さまざまな知的資産を学部横断的に結集し、育児支援・介護ケア・高齢者の見守りなどに関する情報システムの構築へ。こうした展開も、協定締結へと結びつきました。

人口構造の変化に伴う健康福祉の充実策、市民生活・産業振興に関するITの活用、地方分権時代における政策形成能力の向上、まちづくり・ひとづくり、が連携を図る際の大きな柱です。注目される施策の一つ、妊産婦への厚いサポートを行う「助産院ネットワーク構想」では、母性看護学講座との協力体制も組まれます。

ソフトウェア産業の進化を求めて
世界を知り、地域の視点で深まる認識

時代を先導していくITの未来は、いかに在るべきなのだろうか。「東北（岩手）ソフトウェア産業改革」と題し、国際シンポジウムが開催されました（3月9日/メトロポリタン盛岡・本館）。主催したのは、本学のソフトウェア戦略研究所（所長 船生豊）です。ソフトウェア産業のワールドワイドな情勢、課題、そしてイノベーションに関する延べ7チームの講演が第一部。カナダ・ドイツの研究者に続き、ソフトウェア情報学部の村田嘉利教授が移動体通信の新たな潮流を論じました。

ソフトウェア情報学部の藤田ハミド教授がコーディネータを務め、7名のパネラーと議論を展開。東北におけるソフトウェア産業への提言を踏まえ、ポテンシャルを開花させる方向性が示されました。やがてニーズへと転化するシーズ（研究課題）を育てることの意義。多様なビジネスチャンス起業につなげるマインドの大切さ。現場への視点に裏打ちされた研究開発の必然性。マンパワーの有機的な拡充・連携と開発環境の整備が求められること。さらなる段階を指向する議論を通し、このような認識が聴衆と共有されました。



岩手県立大学
地域連携研究センター
研究・地域連携室



マインドを取り持つのも仕事です。

ビジネスモデルの構築に向けて研究プロジェクトを組みたい。地域が抱える課題への解決方法をアドバイスしてほしい。たとえば、このようなニーズが産業界や自治体から本学へ寄せられる時、窓口の機能を果たすとともに、全学的な観点でコーディネートなどを行います。

さまざまな分野で芽吹く研究シーズの育成、あるいは競争的な資金の獲得、知的財産の創出と活用、さらに公開講座や国際交流などにも携わるセクションの存在は産学連携・地域貢献というキーワードに象徴されます。

「待ちの姿勢ではなくゼロからも価値を生み出そうと、県内か県外かを問わずプロモーションに努めています。さまざまな案件を手がけ、より身近で頼れる大学像を確かなものに、という熱い心意気で進みます」

（小山康文・教授兼室長＝前列の左から3番目）

あたら
日々に新、わたしたちの大学を物語ること。

大学改革推進本部長 佐々木 民夫



ふるさとの山に向ひて 言ふことなし
ふるさとの山はありがたきかな
人口に膾炙した石川啄木の一首。岩

手に生まれ育ち、結婚後一時期の北海道漂泊のち、ついに異郷東京でその若い晩年を送らねばならなかった啄木。啄木にとつて帰り戻れぬ岩手とは——「ふるさと」として歌い、想い続ける対象に他ならなかった。

啄木と同じ学窓を巣立ち、さらに高等農林学校で農学を修め、岩手の地にあつて農業指導や独自の文学の創作活動等々を展開した宮澤賢治。賢治は岩手を「イーハトヴ」と名付け、しかも「ドリームランド」としての日本岩手県」では「あら

ゆる事が可能である。」（注目の多い料理店「広告文」と言いあらわした。岩手に生まれ岩手に生き岩手に没した賢治の願いが託された、理想郷としての岩手の把握である。

そして「き賢治の縁に拠つて戦後七年间岩手の地にあつて孤高な「自己流論」の日々を送った高村光太郎。その光太郎の詩「岩手の人」には次のような詩句がある。

岩手の人眼静かに、鼻梁秀で、
おとがひ堅固に張りて、口方形なり。
（略）岩手の人沈深牛の如し。
両角の間に天球をいただいて立つ

かの古代エジプトの石牛に似たり。
地を往きて走らず、企てて草卒ならず、
つひにその成すべきを成す。

東京に生まれ欧米留学の経験を持つ彫刻家にして詩人、光太郎のところに刻印された岩手の人々の風貌と、その生のあり方についての評言といえよう。

「IPU」を、そして「岩手」を思い考えるとき、ふと想起される岩手ゆかりの先人たちと、その詩句等の言説。離れて遠く思い遣る岩手、内にあつて夢を託す岩手、入り込んで捉え認識される岩手と、そこには、まなざしの違いはあれ、先人たちが

見・眺め、思い願つたそれぞれの「岩手」がある。「岩手」が物語られてある。

思うに、「物語る」という営為には、対象への愛着が要請され、それへの強い働きかけが必要不可欠であろう。

開学十年の節目を迎え、新たな次のステージに向かおうとしている「IPU」。その謂は「日々に新」（「大学」なる改革・改善の諸活動を展開しつつ、次世代へ未来へと確実に受け渡され、世界に向けて発信されるべき「IPU」の物語を、「IPU」に生きるわたしたちが能動的に、しかも積極的に物語つてゆくこと、であるに相違ない。

CNSこそ、私の未来

看護学研究所の人材づくり

医療ならびに看護ニーズの多様化・高度化を支える人材として、専門看護師「CNS: Certified Nurse Specialist」への期待感が高まっています。

対象となるのは、がん看護・精神看護・地域看護ほか延べ11分野。臨床における知識・技術・スタッフへの指導力などトータルな実践能力を認められると、日本看護協会からの資格が得られます。

スペシャリストとして、より高いレベルで活躍する看護職者。その育成に向け、看護学研究所博士前期課程は「成人看護(慢性)CNSコース」と「小児看護CNSコース」を開設しています。全国でまだ200人にも満たないと言われるCNS。今のところ岩手ではゼロですが、初めての誕生が待たれています。

応援します、ひたむきさ

日本看護系大学協議会が定める、専門看護師教育課程に基づくカリキュラム。この春に「成人看護(慢性)CNSコース」を修了した2名が、大病院の臨床現場で実地を積んでいます。

また、現在は「成人看護(慢性)CNSコース」と「小児看護CNSコース」の2年次に、1名ずつ在籍。いずれもキャリア10年前後で、あくなき向学心でスペシャリティーに富む実践家をめざしています。曜日を決めたり週末を利用したりしてマンツーマンの指導を受けるほか、遠隔授業の機会も設けられています。

専門看護師とは:
複雑で解決困難な看護問題を持つ個人・家族や集団に対し、水準の高い看護ケアを効果よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた看護師(日本看護協会による規定)。



みんなの理解に励まされ、大学院へ通った2年間

岩手医科大学附属病院
第一内科・糖尿病代謝内科/主任看護師
三浦 幸枝さん
●成人看護(慢性)CNSコース修了

ニューヨークの看護事情を視察した際、CNSの存在に触発されて『生涯、実践』なる誓いを立てました。より高いステージで仕事に就きたい...という気持ちに家族や職場が理解を示してくれた。そのことに、あらためて感謝したいと思います。クオリティー・オブ・ライフと、じっくり関わる。しかも、より高いレベルで。そんな理想像に向かい、仕事と学業の両立に努めました。

さまざまな認識が得られ、専門性を培った点に加え、私なりの看護観も深まったと確信しています。型にはめず、学ぶ者の主体性を受容する指導方針に触発されました。大学院生活を終え、今は外来の患者さんへの対応、看護スタッフのマネジメントなどで忙しい毎日です。また、申請の際に提出する報告書も作成しなければなりません。自分自身に課したハードルをクリアするため、一生懸命は続きます(談)。

専門看護師のキーワード

- ◆ 実践 ◆ 個人・家族または集団に対して、卓越した看護ケアを行う。
- ◆ 相談 ◆ 看護職者を含む、ケア提供者に対するコンサルテーション。
- ◆ 調整 ◆ 円滑なケアに向け、保健・看護・福祉に携わるスタッフをコーディネート。
- ◆ 倫理調整 ◆ 個人・家族または集団の権利を守るため、倫理的な問題や葛藤の解決を図る。
- ◆ 教育 ◆ 看護職者への教育・指導を通じ、ケアの向上を促していく。
- ◆ 研究 ◆ 専門性の向上・開発を図るため、実践に即した研究活動を。

専門性の分化に対応する11分野

- ◆ がん看護
- ◆ 精神看護
- ◆ 地域看護
- ◆ 老人看護
- ◆ 小児看護
- ◆ 母性看護
- ◆ 慢性看護
- ◆ クリティカルケア看護
- ◆ 感染看護
- ◆ 在宅看護
- ◆ 家族看護

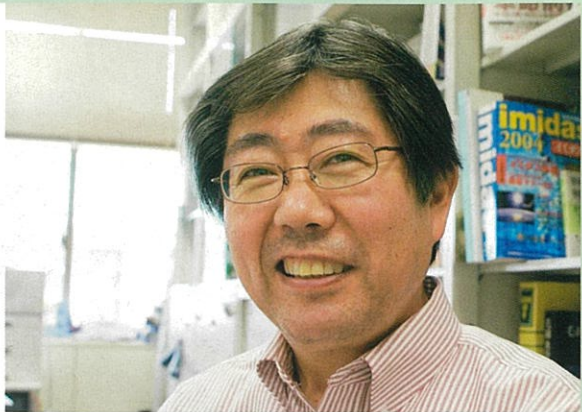
専門看護師へのステップ

- ◆ 保健師・助産師・看護師、いずれかの免許を有すること。
- ◆ 看護系大学院の修士課程を修了し、所定のカリキュラムに基づく単位を修得していること。
- ◆ 通算5年以上の実務経験を持ち、3年以上は特定の専門看護分野に携わること。その3年のうち1年は、修士課程を修了後の実務経験でなければならない。
- ◆ 認定試験
1次/書類審査
2次/口頭試問
- ◆ 専門看護師として、認定証の交付・登録

教える私・究める私

パイオニア精神を宿し、走り続けよう。

ソフトウェア情報学部/教授 柴田 義孝



しばた よしたか

カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院の計算機科学専攻・博士課程を修了。ベル通信研究所での超高速ネットワーク研究、東洋大学工学部教授などを経て本学へ。専門分野はコンピュータネットワーク・ヒューマンインタフェース・感性情報処理。情報処理学会代表委員、電子情報通信学会会員。また、本学の地域防災研究所長も務める。

大学で電子工学を学んだ後、大規模化学プラントのコンピュータ制御設計に携わった時期がある。やがてコンピュータサイエンスが花開く頃、アメリカでの超高速ネットワーク研究を通して未来が近づいているのを感じる。重厚長大が主流とされた産業構造に替わり、ソフト面が重視される時代への転換点をリアルタイムで過ごした。「アグレッシブに自己の価値を磨くため、モチベーションを高めよう」「めざす次元へ、コツコツと努力を重ねよう」。柴田先生が学生へ向け発するメッセージには、実体験に裏打ちされた重みがある。「グローバルな情報化社会を生きる時代感覚、人間性、創造性リテラシーを培える環境を活かし切りたいと思います。他者からの刺激を通して、ポテンシャルは上げられます。国際学会での発表を奨励したり、人のネットワークを広げるよう促したりする理由は、そこにあります」

環境情報デザインが、柴田研究室の対象領域である。その具体的な実践テーマの一つが、広域的な防災情報ネットワークの構築だ。高品位かつ安定的に稼動する通信インフラを使って非常時の情報伝達、安否確認、さらに人的資源の連携をスピーディーで確かなものにする。それは地震、津波、火山の噴火、雪害、風水害などへの備えとして有効だろう。岩手というフィールドで実証試験を行い、世界的にも通用する成果を望んでいる。「とにかくにも、住民の安全確保を第一に考えたい」と説く柴田先生の言葉から、並々ならぬ本気ぶりが伝わってくる。

「衣」を通して見つめる環境、暮らし。

盛岡短期大学部 生活科学科/准教授 菊池 直子



どんな着眼点で、衣生活への関心を惹き付けるか。人間にとって欠かせない日常的な要素で、科学の対象としてもテーマの尽きない分野に取り組み菊池先生は「まず身近なことに目を向けよう」と、呼びかける。たとえば「衣服を身に着けて環境を整えるのは、なぜなのでしょう」という問題提起。その答えには体温調節の補助、皮膚を清潔に保つ、外的な刺激や力が及ぶのを防ぐ、さらに動きやすさの確保、といった点が挙げられる。知る喜びは、さらなる向学心を呼び覚まして具体的なテーマ展開につながっていく。もちろん、そうしたプロセスは学生と共有できる。「衣服を作る布に科学の目を注ぐ」という切り口も面白いですよ。平面のように見えるのに立体感に富み、風合もカタチも千差万別な布。それらの物質的な特徴、資源としての活かし方などを学ぶと、ふだんの暮らしと結びつけながらリアリティーのある勉強を体系づけられると思います」

写真でも実物でも、羊の愛らしい姿を見ると安らぐような気持ちに誘われて、ついついウールを連想してしまふ。かく言う菊池先生は被服材料学の見地から、岩手で生まれた純良な毛織物・ホームスパンに注目。その保温性・通気性・透湿性・圧縮弾性・接触温感(肌ざわり)などに関する実験データを集め、機械織ツイードとの比較研究も行っている。

「おさない頃から、いろんな布地で何かを作り出す手芸に親しんでいました。その延長線上に、好きなことを究める今の私があるのだと思います」

きくち なおこ

日本女子大学家政学部被服科卒。岩手県立盛岡短期大学の助手、講師を経て1999年4月、盛岡短期大学部助教。専門分野は被服衛生学・被服材料学。担当科目は「衣環境論」「衣材料学」「洗浄科学」。近著は「快適服の時代」(ブレン出版/共著)。日本家政学会・日本繊維製品消費科学会・日本衣服学会などに所属。

きょうも未来を感じてる。

看護学部 / 4年

佐藤 結夏^{ゆか}



現場の空気は触発する

3年次の後期から、かなりのエネルギーを実習に注いできた。キャンパスで過ごすのではなく、病院や保健施設など受け入れ先で学ぶ機会は多様かつ実践モードだ。

母性・小児・成人・老年・精神・地域という領域を、すべての看護学部生が体験する。さらに、それぞれが対象領域とテーマを主体的に定めて取り組むのが「看護総合実習」。現場への理解を深めながら、佐藤さんも看護職者へのステップを昇っている。

「私は保健師を志望しています。できるなら、岩手に残って仕事に就きたい。この忙しさが一段落すると、就職活動の季節がやって来ます。未来へ向かっている実感が確かにあります。型にはまらず、自分の適性を伸ばせる勉強の魅力が大学で知りました」

看護観を培うプロセス

授業で配られたプリントは、入学の

頃から欠かさず残してある。ファイルに見やすく整理し、基本の確認に役立っているという。

実習を重ねること、手早く記録をまとめるのが苦にならなくなった。この点も、成長の証と言えるだろう。さまざまな看護ケアの場面に立ち会って気づいたこと、思ったこと、指導を受けたポイント、患者様とのやり取り、臨床における知識や理論の活かし方、そして自分なりの考え……。これらを、借り物ではない言葉で綴ることに意義がある。さまざまな視点が生まれ、考察と思考は広がっていく。ちいさな文字で埋め尽くされるレポートは「佐藤さんの看護学」の深まりを物語る。

人の輪に入ってゆこう。

やわらかな緑が周囲を彩り、吹く風も軽やかそのもの。好天に恵まれた5月14日、佐藤さんは初めての田植えに臨んだ。場所は、大船渡市の日頃市。地域看護実習の一環として、障害者の自立支援をサポートする行事に参加し

ただ。

農業高校の女生徒、高齢者、農家人、行政関係者からも顔を揃え、豊年満作を祈る神事から交流の機会がスタート。裸足で恐る恐る水田に入った佐藤さんは、見よう見まねで2メートルほどの区間を作業し終えた。

あぜ道を引き揚げ、用水路で泥を流した。その後、お茶で軽く一服。さらに近くの公民館へ移動し、田植えのメンバーが集う餅つき会へ参加。メンタルな健康づくり、障害者の社会参加に向けても、看護職者が大きな役割を果たす存在であると認識できた。

佐藤さんと一緒に、かけがえのない実習に取り組んだ仲間も紹介してご紹介。菊池香奈子さん、田村奈々さん、中澤みき子さん。看護の道めざして学ぶ、という真摯な動機は誰もが同じ。行動を共にして気心が知れ、いろいろ分かり合えるのが嬉しい。

危機管理もキーワード

大船渡保健所での実習は、5日間にわたって行われた。入門編として、地域における保健所の役割を学んだ。このほか精神保健に関する取り組み、難病対策、成人病予防、母子保健・子育て支援のサポート、感染症・食中毒・災害などが起きた際の危機管理、すこやか・長寿の里づくり、というようにテーマごとの時間が設けられた。「どれもが興味深く、とても中身が濃かったですね。地域の人の健康と安全

を確かなものとする職務の内容を、より具体的に捉えられました。保健師はじめスタッフの皆さん、いろいろとご指導ありがとうございました」

足への温冷効果に探究心

卒業研究で、足浴の方法と効果を取り上げる佐藤さん。自由な発想と主体性を尊重するポリシーを掲げ、武田利明学部長（基礎看護学）が指導に当たると、言い尽くせない感謝の気持ち。

お湯によるリラクゼーション効果あり。心臓に負担が掛からない。入浴に比べて体勢が楽。しかも湯加減や時間の調整で、さまざまな効果が見込める。在宅看護にも活かせる足浴は、慢性期に適する方法の一つとして有効だ。その実証データを集め、分析を通して理論の裏づけを得て、有用性を明らかにしようというのが佐藤さんのプランだ。

「足を洗う。足を浸す。足のツボをマッサージする。これら三つの方法を同級生に施し、皮膚の状態や血流へ及ぼす作用を実験しようと思います。手はじめに、温冷浴に関する科学の文献をチェックするつもりです」

研究計画の発表会は7月に。動機・目的・背景・方法などを説明する機会が控えている。大枠さえ固まれば、12月の提出に向けて動き出せる。さらに、実践の場へ羽ばたくための最後のハードル、看護師の国家試験（2月）へと息の抜けない日は続く。



経済分野のみならず、総合的な地域発展へのシナリオ作りに参画する。そこが、本来の県立大の役割ではないでしょうか。「学」の持つ多彩な視点、論理的かつ今日的な思考とメソッド、そして実践レベルの有用性を民間との連携・協働を通して具現化していただ

目を転じると、世界における日本の現状と未来は、決して甘くありません。グローバル化など社会構造の変革が著しく、この岩手も大きな潮流と無縁ではないのです。地球規模の人口増、中国・東南アジア・インド・ブラジルなどの経済成長などと呼応して資源不足、食糧不足の兆候が見えています。かたや日本は、かなりの割合で資源・食糧を海外に頼り、高齢化社会を迎えた今、なおかつ国家的な財政危機も深刻さを増すというように、課題が山積している状況です。

時代の逆風に負けず、岩手はポテンシャルを開花させねばなりません。振興著しいアジア各地へのアクセスが、日本海側より遠回りとなる立地条件。しかも、太平洋側の内陸を中心に経済圏の広がる岩手。たゆまぬ発展へのビジョンを描くには、それ相応の創造力と行動力と覚悟を持たねばならない。これが、経済人たる私の認識です。

岩手を咲かせる知恵を

「地域社会に貢献する大学」として、オリジナリティーに富む建学の精神が脈々と息づいているのは喜ばしいことです。とりわけ、知識に偏りがちな教育のあり方を改め、実践との関連を重んずる方針を打ち出した初代学長・西澤潤一氏のマインドに、私は大いに共感を覚えています。さまざまな分野で今日的な地域課題を解決へ導く大学像に、普遍的な輝きが増すよう期待します。

キャリアの描き方

ITの人。岩手に根ざすという選択。

(有)ホロニック・システムズ システムエンジニア
三田地 道明さん
ソフトウェア情報学部 [平成17年3月卒]



学生時代、個人で起業した。ホームページ制作Webアプリケーション開発などを手がける「さくらシステムサービス」は今も続いている。「僕にもやれそう。やってみよう」。こんな強い意志が働いた何よりの理由は、自活して学費を稼ぐためである。データベースシステム学の講座に所属する一方、大学実行委員会のメンバーでもあった。卒業してからは、システム開発会社の一員という顔も持つ。

「専門職者が7人の、チームみたいな雰囲気です。大きすぎず小さすぎず、風通しも良く働きたい環境ですね。プロの誇りを持って仕事に打ち込み、もっと岩手での存在感をアピールしようと張り切っています」

今、環境エンジニアリングの複数年にわたる開発プロジェクトでリーダーを務めている。ほぼ毎日、現場に詰めている三田地さん。システムエンジニア

(SE)としての力量に加え、トータルな視点で全体を捉えて仕事を推し進めるリーダーシップ、ユーザーとのコミュニケーションスキルなどを高いレベルで発揮する立場なのである。

携帯電話のアプリケーション。社内LANの構築。官民を問わず引き合いの多い、セキュリティシステム。モノづくりとの接点としては、制御系の組み込みソフト。こうした多岐に及ぶ機会を活かす過程で、将来への自信と希望がカタチを整えてきた。

SEという職業に就き、地元で働く選択を下した。今をときめく案件の集中する都会を指向するのではなく、この岩手で出来ることの可能性に未来を託したい。また職住接近の環境なら、仕事と家庭生活とのバランスを、ほど良く保てる。そんな三田地さんの生き方は、ITに携わる頭脳の定着という観点で示唆に富むケースだろう。

僕は、テレビの世界が好きなんだ。

岩手朝日テレビ営業局
佐藤 健太さん
総合政策学部 [平成17年3月卒]



聖石川に架かる盛南大橋を渡って出社する。歩いて20分。盛岡駅西口にある職場へ着くと、メールのチェックや打ち合わせを済ませたり、その日の訪問予定を確認したりして営業車に乗り込む。スポンサーの新規開拓、そしてフォロワーがテレビ局の営業活動の根幹だ。盛岡市内ほか県内一円を回る。アミューズメント産業、教育機関、流通業、地方自治体などとのリレーション強化に向け、佐藤さんはアイデアと情熱を注ぐ。

15秒、30秒というようなCM枠をセールスする。すなわち、時間に対する提案や付加価値を、いかにして認めてもらってオンエアに結びつけるか。意識は、この点に集中する。企画書やタイムテーブルを持参してイメージアップ、販売促進への実のある話を重ねていくことになる。3年目に入って「そろそろ独り立ちの時期かな」という自覚が

強まってきた。

「その都度、何が求められているのか、どう対処すれば良いのか、という判断能力を磨こうと思えます。まわりの状況が見えるとニーズの把握が的確になり、より効果的な電波媒体の活用へ道が開けるでしょう。理想は、そんな流れを作り出せる人材です」

イベントの立ち上げ、活字媒体とのミックス、さらに予算管理、編成部局との連携なども視野に入れたらテレビマンの思いを体現していく佐藤さん。

在学中はメディア・コンテンツ研究会(略称・メコン)で活動し、学部のPRビデオなど動画の制作に取り組んだ。情報の受け手に向け、さまざまな価値やメッセージを発するマスコミへの興味は、きわめて自然な形で芽生えたようだ。「テレビが好きだから」というシンプルな心情が、あくなき成長を支えている。

価値ある交流を
重ねましょう。

株ジョイス 代表取締役社長
岩手経済同友会 理事・副代表幹事
岩手県産業教育振興会 会長
社日本セルフ・サービス協会 副会長

小苺米 淳一

近くて・頼れる存在へ

きたい。パートナーシップを育み、プロセスと成果を共有する方向性のもとで無から有を生み出す多面的な取り組みが深化すると信じています。本音を交えた息の長い交流の成果を地域へ放つだけでなく、それらを全国へ、世界へと発信するのも意義深いと思われれます。

岩手県・秋田県に43店舗を持つスーパーマーケットである弊社は、地域のお客様の日常生活を支えています。また販売の中核を占める農産物・魚介類・精肉・乳製品・加工食品などの産地・仕入先の多くは地元で集中。地域の皆さんとの日常的な結びつきは、とても深く強いのです。もちろん非食品分野も含め、基本的に、日常的な生活の多彩な場面をフォローする業態として、実のある社会貢献を指向しています。大学側とは商品開発・製造・マーケティング・情報システム・衛生管理・物流・人材開発など、多面的な業務にそのノウハウを活かしたいものです。

課題の共有から解決へ、あるいは経営手法の高度化に向けて、いろいろ話したい。当社はじめ、そう望む地元企業は少なくありません。「いつも身近で頼れる大学」という県立大への期待感に、どう応えてもらえるのか、楽しみは広がります。

God is in detail。「現場には神が宿る」と意識される言葉は、なにげない普段の現場の場面の一つ一つに問題を解くカギがある、という意味です。この真意は、大学教育にも当てはまるはず。時には、あるがままの社会の姿を捉えて学問の内容へ結びつけること。柔軟性も不可欠でしょう。また、それとともに地域の未来を拓く多様な人材の輩出に向けても、さらなる奮闘と結果を期待します。

